



## 麦のようにたくましく育って！ 高木第二小学校で麦の種まきを行います

本校5年生の子どもたちが、校庭の一画を利用してつくられた麦畑に、毎年恒例の麦の種まきを地域ボランティアの皆様の協力を得て行います。

- 日時 令和3年11月15日（月）10時30分から ※雨天の場合は翌日に順延
- 場所 松戸市立高木第二小学校 校庭
- 協力 地域ボランティア「麦の会」の皆様、農協職員
- 経緯 「のびよ、のびよ、麦の穂よ」これは、本校校歌の歌い出しです。

本校設立当時、学校の周囲は多くの麦畑に囲まれていたそうです。

「麦は踏まれて強く育つ」と言われます。子どもたちにも麦のように強くたくましく育ってほしいという願いのもと、本校児童を「おぎっ子」と呼び、学校教育目標でもある「ひとみ輝くおぎっ子」の育成に取り組んでいます。そんな「おぎっ子」たちに本物の麦、麦畑を見せてあげたいという思いから、平成28年10月に、地元町会をはじめ有志の方々の協力を得て、校庭の一画に麦畑が完成しました。毎年、子どもたちが麦の種まきから、麦踏み、麦の収穫を行い、さらには給食で収穫した麦を使った「おぎっ子すいとん」をつくっていただき、自分で育てた麦を食する喜びを感じています。

翌年の平成29年5月には、田んぼが完成、令和2年にはトマト畑もできました。5年生の子どもたちが田植えから稲刈りまでの農作業を行ってお米を収穫したり、1・2年生の子どもたちが生活科の活動と関連してミニトマトの栽培、収穫をしたりして育てること、食することの喜びを味わっています。

※詳細は、添付「学童農園推進事業の取り組み」をご覧ください

### 【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2213 千葉県松戸市五香4-18-1

松戸市立高木第二小学校

☎047-387-2191 ☒ takag2-e@matsudo.ed.jp

# 学童農園推進事業の取り組み

松戸市立高木第二小学校

のびよ、のびよ、麦の穂よ。これは、高木二小校歌の歌い出しです。ですから本校児童を「おぎっ子」と呼んでいます。そんな「おぎっ子」に本物の麦を見せてあげようと、五香東町会長の武田さんを始めとした有志の方々が校庭脇に麦畑を作ってくださいました。

平成28年10月 むぎ畑完成



校庭のプール隣のスペースに「おぎ」を育てる「おぎ畑」が誕生しました。農業に詳しい地域の方々（「おぎの会」）にご協力いただき、おぎを栽培できるような畑になりました。

平成28年11月17日(木) むぎの種まき



平成29年1月12日(木)・26日(木) むぎふみ

早春の寒い時期におぎの芽を足で踏む「おぎふみ」を行いました。「かわいそうな気がする」と言う児童もいましたが、丈夫なおぎに育つように願いを込めました。

平成29年3月9日(木) むぎ畑追肥

「おぎっ子農園」のおぎに肥料を与えました。

そんな時です。学童農園推進事業を知りました。子ども達に田んぼでの米作りも体験させてあげたい。

平成29年5月 田んぼ作り

田んぼプロジェクトが「おぎの会」の皆さんの協力で始動しました。5年生の社会科学習や食育の一環として、田植えや稲刈り等の実体験を通して、「生きた学習」を子ども達に経験させたいと、まず、校庭の南東の角に田んぼを作りました。



### 平成29年6月6日(火) 田植え

田んぼに入って田植えをするなんて、5年生の児童にとって初めての体験です。苗は武田さんが用意してくれたコシヒカリです。「大きく育てね」と願いを込めて、ていねいに苗を植えました。



体育館外の水道からホースをつなぎ合わせて水の管理をします。

ちょうどそのころ、6年生が昨年の秋にまいた麦を収穫しました。初めて使う鎌での刈り取りは大変でしたが、麦の稲穂を全学級に配付して教室に飾ってもらいました。農協のご協力で脱穀・製粉していただいた小麦粉を使い、調理員さんに「すいとん」を作ってもらい、7月14日に全校児童が給食でいただきました。「おぎの会」の皆さんにも食べていただきました。すいとんを食べたことのなかった児童は、「おもちより柔らかくておいしい」と感想を述べていました。「自分たちで育てた麦で作ったからおいしいんだよ」という児童もいました。子ども達は、作物を育てることの大変さと収穫の喜びを感じることができました。



## 8月 夏の田んぼから 9月 実りの秋へ



田んぼの周りに防草シートを敷きました。まだ青い「もみ」を指でつぶすと、白い米の水がでてくる体験をしました。鳥よけのテープも張りました。むぎっ子農園の周りに杭を立ててネットで囲みました。児童の手作りのかかしも立てました。

### 9月25日(月) 稲刈り

黄金色に成長した稲を5年生が鎌で刈り取りました。保護者の皆様にもお手伝いいただきたくさん収穫することができました。



鎌で刈り取った稲を束ねて干します。その後、脱穀・精米し、小麦粉と同じように松戸市役所の農政課で放射性物質の測定検査を受けて安全を確認してから、11月6日に給食でいただきました。「いつも食べている給食のごはんより粘り気がある」と言った児童がいました。「むぎの会」の皆さんにも食べていただきました。

この学童農園推進事業の取り組みは、高学年の子ども達に米作りの貴重な実体験を、下級生には本物の稲穂の感触を与えてくれました。最後には、全校に給食で食す楽しさまで与えてくれました。計り知れない心の教育をもたらしてくれたのです。



## ●「学童農園推進事業」とは

千葉県農協農政対策本部と千葉県農業協同組合中央会が、「学童農園推進事業」を支援してくださっています。

「次世代を担う子どもたち、特に身近な生活環境から農の風景に触れられない都市部の子どもたちにも、農業体験を通じて自然を慈しみ、食べ物を作り育てる苦勞と喜びを味わいながら、「食べ物や生命の大切さ」を知り、「生きる力」を身につけるとともに、日本の農業への理解促進に努めることを目標としている」そうです。

そこで、県教育委員会を通じて、学童農園実施の事業計画申請のあった学校に対して事業助成を行ってくださっているのが、「学童農園推進事業」です。

## ●参加している本校児童

### ①麦栽培

5年生が11月に種まきをして、翌年、6年生になった6月頃に刈り取りを行っています。(6年生児童……105名)

### ②米栽培

5年生が5月に田植えを行い、9月に収穫をします。  
(5年生児童125名)

### ③ミニトマト栽培

校長先生を中心に栽培を行っています。収穫は、1・2年生児童を中心に収穫をします。今年度は大豊作でしたので、夏休み中、期間を指定して、全学年の児童に収穫をしてもらいました。

## ●畑の面積および収穫量

【面積】 ①麦……………10m × 15m = 150㎡

②米……………10m × 6m = 60㎡

③ミニトマト……10m × 7m = 70㎡

【収穫量】 ①麦……………45kg → 製粉後 16kg

②米……………30kg → 精米後 24kg